

1. 活動のテーマ
〈テーマ〉
音
〈テーマの設定理由〉
(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)
日頃からリトミックや楽器遊びなどを通して音楽に親しんできていることを背景に、生活の中にある身近な音や、普段耳にしないリズムや楽器の音色にも興味を持ち、それらへの関心をさらに深めていきたいと考えたから。
2. 活動スケジュール
<ul style="list-style-type: none"> <li>●令和6年9月～令和7年3月</li> <li>・11月・1月:演奏活動</li> <li>・月2回:リトミック</li> <li>・月1度以上:音楽遊び</li> </ul> <p>9～10月: リトミックや身近な音、シンプルな楽器やリズムに触れながら音への興味を引き出す。  11～12月: パーカッション演奏会への参加を通して興味を深め、発表会での演奏活動に繋げる。  1～3月: 音階のある楽器や和楽器などの楽器を知り、音色を楽しむ。自分達での演奏体験を元に、更なる楽器を試してみるなどして興味を広げる。</p>
3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定
(活動のためのどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)
<p>クラスごと分けて活動を行い、子どもたちが自分の考えや表現を友達や保育者に共有しながら活動を行えるようにした。</p> <p>日常的に使用する打楽器に加え、廃材を利用した手作り楽器や音階のある楽器も用意し、子どもが自由に選び・試すことができるようにした。保育者は子どもの主体性を尊重し、見守る姿勢を意識した。徐々にメロディーに触れられるよう、打楽器に加えて音階のある楽器にも親しめるような構成にした。</p>
4. 探究活動の実践
〈活動の内容〉
<p>今回の探究活動では、楽器の音色や使い方による音の変化について探求した。</p> <p>具体的には、強く叩くと音が大きくなる、弱く叩くと小さくなるだけでなく、「強く叩いても響かない」「弱く叩いても響く」といった発見もあった。また、音楽会での演奏経験や演奏会での指揮体験を通して、リズムやテンポの変化にも関心を持つようになった。</p> <p>既成の楽器だけでなく、廃材を使った楽器の音色にも興味を示し、自由遊びの中に取り入れる姿が見られた。</p>
〈活動中の子供の姿・声、内容〉
(活動中の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)
<p>「こうやると速くなったね」「大きな音だった」「見たことがない楽器だった」「面白かった」「やってみよう」など数々の感想を述べていた。日頃のリトミックの中でテンポの違いなどを入れることで聴くだけでなく、身体でテンポやリズムを体験でき喜んでいて。音楽に苦手意識がありカスタネットばかりやっていた子が、ウッドブロックやオーシャンドラムなどを通じて違う楽器にも興味を持ち、音階のある楽器にも触れるようになっていた。</p>
活動の様子が分かる写真 2枚以上を添付してください。
(HPなどで公開する可能性がありますので、公開可能なものを使用ください。)
  
5. 振り返り
〈振り返りによって得た先生の気づき〉
<p>これまでのピアノ中心のリトミックやリズム運動に加え、打楽器や他の楽器、実際の音楽会への参加を経験したことで、子どもたちは「演奏すること」に憧れや意欲を持つようになったと感じる。</p> <p>発表会での演奏にも「やらされている」感覚ではなく、自発的に且つ熱心に取り組む子どもの姿が多く見られた。</p> <p>良質な音楽に触れる経験の重要性を再認識し、今後も音や楽器に親しみを持ち、様々な音楽体験を取り入れ、「聴く」だけではない躍動感ある活動へとつなげていきたい。</p>